加賀市医療センター 地域連携センターだより
TSUMUGI
vol.07 | 2021.12 | つむぎ

前立腺肥大症の最新のレーザー手術が導入になりました！

泌尿器科 部長
朝日 秀樹
（あさひ ひでき）

日本泌尿器科学会
専門医・指導医
日本がん治療機構
がん治療認定医

1973年　福井県生まれ
1997年　金沢大学泌尿器科入局
1999年　福井赤十字病院
2000年　国立金沢病院
2001年　田谷泌尿器科医院
2004年　加賀市民病院
2008年　日本泌尿器科学会
　　坂口賞受賞

男性の方で、排尿困難や夜間の頻尿にお悩みの方は多いのではないでしょうか?

これは前立腺肥大症という病気の症状かもしれません。前立腺は加齢とともに増大する傾向があり、特に50代以降の中高年層でその傾向が顕著に現れることが判明しています。

重症化しますと、時に尿が全く出なくなる（尿閉）こともありますので注意が必要です。

前立腺肥大症は、お薬で治療することも可能ですが、長期間の服薬が必要となります。服薬中も前立腺肥大症が大きくなり続けることがありますので、根本治療には手術が望ましい病気です。

2020年、当院に前立腺肥大症の最新の治療法である光選択式前立腺蒸散術（PVP）が導入されました。この手術はグリーンライトレーザーと呼ばれる特殊なレーザー光線を、排尿の妨げになっている前立腺肥大症に照射して組織を蒸発させることで、尿道を広げて、排尿の症状を改善させる手術法です。

従来の手術法に比べて、この手術の特徴は、
- **手術中と手術後の出血が少ない（血液をサラサラにする薬を飲まれている方にも安全です）**
- **術後の痛みが少ない**
- **体への負担が少なく、合併症のある方でも安全性が高い**
- **手術後のカテーテルを早めに抜くことができる**
- **入院期間が短い**　などのメリットがあります。

また、当院ではグリーンライトレーザーの中でも最大出力180Wの最新機器を導入していますので、大型の前立腺肥大症の方でも治療が可能です。

当院では、前立腺肥大症の治療を積極的に推進しています。光選択式前立腺蒸散術の他にも、長年の実績のある経尿道的前立腺切除術（TUR-P）や、大型の前立腺肥大症にも対処でき、根治性の高い経尿道的前立腺レーザー核出術（HOLEP）など、患者さんの状態やご希望に応じての治療が可能となっています。排尿にお悩みの男性の方は、いつでもお気軽にご相談ください。

排尿ケアチームが結成されました！

入院されたことがある方の中には、病気や病気の治療のために尿道にカテーテルを挿入された経験があるかもしれません。尿道カテーテルが長く挿入されますと、自分で動けない期間が長くなり、体力の低下を引き起こしたり、カテーテルから菌が侵入して尿路感染を引き起こしてしまったりすることがあります。

1日でも早く尿道カテーテルを抜去し適切な排尿ケアを実施することで、尿路感染症を予防するとともに、患者さんが自立して排尿できるよう支援するために、当院でも排尿ケアチームが結成されました。チームは泌尿器科医、看護師、作業療法士、医療事務の多職種から構成され、それぞれの専門性を生かしながら患者さんの排尿機能の改善にかかわっています。

当院では、ご高齢の入院患者さんが多く、入院中に元の病気が改善してきたにもかかわらず、排尿機能がよくならないことでお困りの方が多くいらっしゃいます。排尿ケアチームでは、そのような患者さんのお力になれるよう努めてまいります。もし、排尿でのお悩みがありましたら、いつでも病棟看護師にご相談ください。

オンライン地域連携交流会

令和3年 9月16日㈭

令和3年度 加賀市医療センター オンライン地域連携交流会

今年度も地域連携交流会をオンラインで開催し、院内外より42施設96名の参加がありました。

オンライン開催に慣れ、新しい生活様式が定着されつつあるのを感じています。

講演内容

「加賀市医療センター着任2年目の取り組み」 病院事業管理者 清水 康一

①病院機能評価受審 ②電子カルテ更新に伴う業務改善 ③医療の質・経営効率の向上を目指したクリティカルパスの改定 の3つの施策が述べられました。

afterコロナ、withコロナの診療体制・病院事業の改革に向けて、コロナ禍前に戻すのではなく、不要なものは廃止、代替可能なものは変更するという、改革を進める良いチャンスとしてとらえる事業管理者の姿勢を示しました。

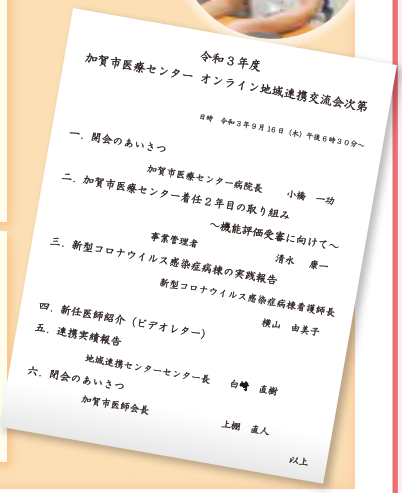
小橋 一功 病院長

「新型コロナウイルス感染症病棟の実践報告」

新型コロナウイルス感染症病棟看護師長 横山 由美子

一般病棟からコロナ患者受け入れ病棟と決まった2020年2月、感染リスクと常に隣り合わせの高い緊張感の中、感染対策、患者受け入れ、患者・家族支援、そして患者の死…。

刻一刻と変わる状況に合わせた流動的な病棟運営に応じていかなければならない中、スタッフを支え、そして支えられ乗りこえてきた現場の実践内容を、多くの資料と写真とともに語られました。



令和３年度
加賀市医療センター オンライン地域連携交流会次第

日時 令和３年９月16日（木）午後６時３０分～

一、開会のあいさつ
加賀市医療センター病院長 小橋 一功

二、加賀市医療センター着任２年目の取り組み
～機能評価受審に向けて～
事業管理者 清水 康一

三、新型コロナウイルス感染症病棟の実践報告
新型コロナウイルス感染症病棟看護師長 横山 由美子

四、新任医師紹介（ビデオレター）

五、連携実績報告
地域連携センターセンター長 白崎 直樹

六、閉会のあいさつ
加賀市医師会長 上棚 直人

以上

「連携実績報告2021」 地域連携センター長 白崎 直樹

昨年度の実績、救急・入院・外来患者の推移を報告しました。クラスター発生を受けて、コロナの影響を強く受けた厳しい実績が示されました。紹介・逆紹介率はまだ十分な結果とはいきませんが、今後も継続的な取り組みをしていきます。また、9月より「在宅療養後方支援病院」の認定を受け、加賀市内の在宅医療を希望される方を応援するため、「在宅療養支援診療所」と今まで以上の連携をお願いしました。

10月1日から「麻酔科 周術期外来」が始まりました!

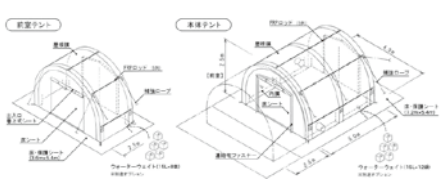
周術期という言葉は耳慣れない方も多いと思いますが、手術前～手術後の一連の総称です。

手術を安全に乗り切るには、周術期の様々なリスクを察知して適切に対応することが重要です。当科では麻酔科医より、麻酔に関する説明を納得いただくまで丁寧に説明します。また、手術後も病室に伺い、痛みの程度や体調を確認します。

手術予定のある全患者さんを対象に主治医と多職種（各専門医、麻酔科医、看護師、薬剤師、栄養士など）で身体的・精神的なサポートを行いますので、不安なことや気になることがあればご相談ください。

医療用陰圧テント導入

加賀市医療センターでは、現在の新型コロナウイルス感染症や将来的に発生し得る感染症に備えて、医療用陰圧テントを導入しました。本テントの「陰圧フィルターシステム」は、医療行為が行われる本体テントの気圧を外部よりも下げ、テント内のウイルス類をフィルターでろ過する仕組みです。クリーンな空気のみを外部に排出して、ウイルスの飛散を防ぎます。また、本体テント内においても、一定方向に空気の流れを保つことで医療従事者の2次感染が生じにくい環境をつくります。



基本理念

「おもいやり」

私たちは、市民とともに、市民中心の医療を提供し、市民の健康を守ります

基本方針

1. 信頼される最適な医療を提供します
1. 救急搬送をことわらない体制を目指します
1. 将来を担う優れた医療人を育成します
1. 地域に根付いた医療を実践します

編集後記

多くの研修・交流会が開催されるようになりました。ハイブリッド形式が主流になる中、参加者が自分で参加方法を選択できる時代になり、交流や学びの新しいスタイルが確立されてきました。連携の在り方も随分変わりました。

発行 加賀市医療センター広報委員会・地域連携センター

〒922-8522 石川県加賀市作見町リ36番地
TEL 0761-72-1188（代表） TEL 0761-76-5133（直通）
E-mail renkei@city.kaga.lg.jp http://www.kagacityhp.jp